

品管の高度化システム

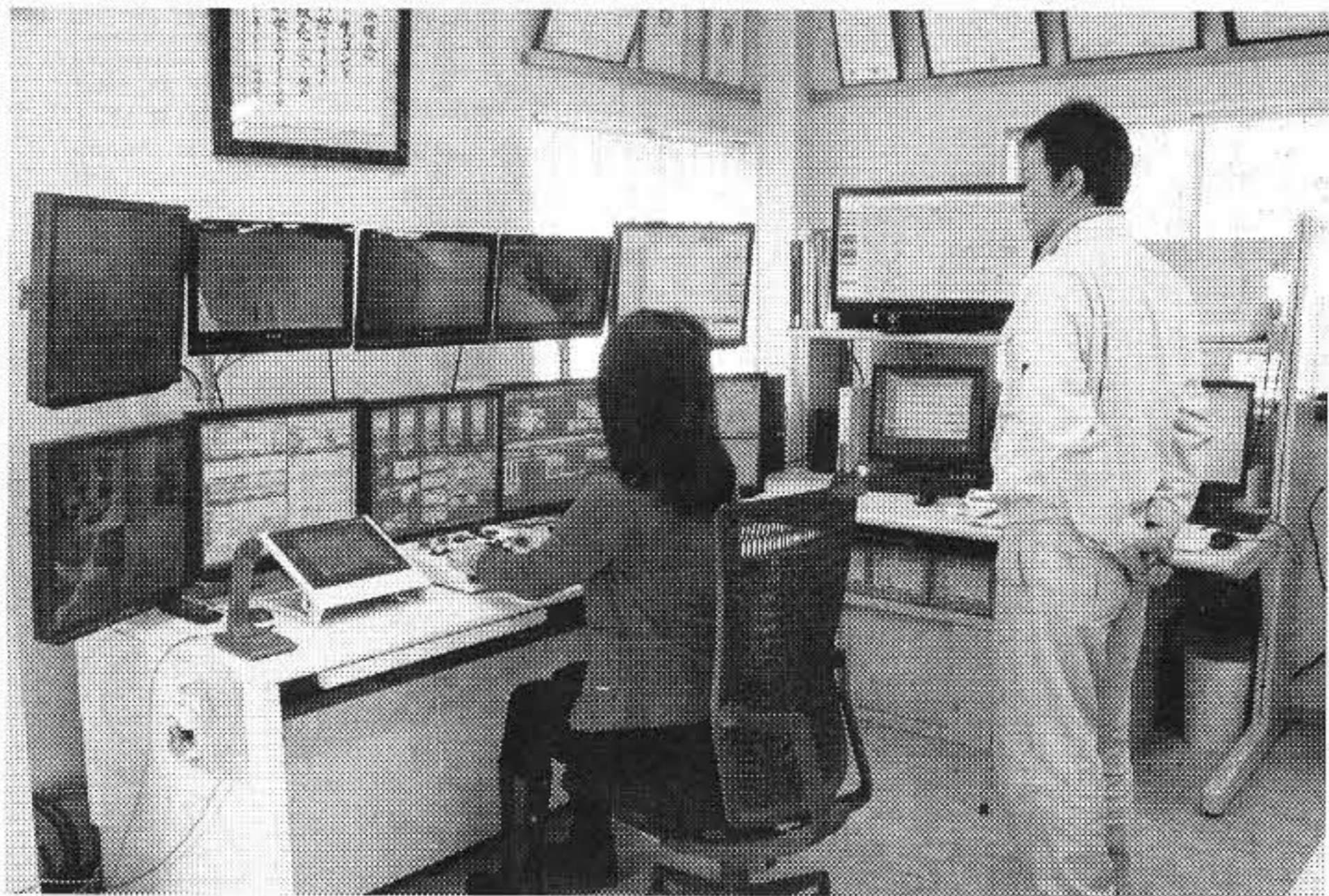
傘下全工場で採用

組協部 熊協支 新宮部

奈良県から三重県と和歌山県の県境に沿って熊野灘に注ぐ、世界遺産としても有名な熊野川。その川をまたいで日本でも珍しい「県」を超えた広域生コン協組、鷲熊生コンクリート協同組合が活動している。同協組は尾鷲・熊野・新宮の3支部に分かれるが、新宮支部では傘下全工場を対象に統一された品質管理システムが導入されるなど事業の高度化が図られている。そこで鷲



日比野支部長



日比野生コン新宮工場／女性や若い世代にも好評



新宮支部／様々な合理化が図られている

熊協組新宮支部長を務める日比野生コン（本社、三重県南牟婁郡）の日比野勝良社長に現況を聞いた。

◆ ◆ ◆
日比野生コンは本社のコンクリート二次製品の製造販売に加え、和歌山県の新宮市と那智勝浦町で生コン工場を操業している。鷲熊協組新宮支部はこの2工場に加えて、岡本土石工業とセント

ラルコンクリートの2工場を加えた傘下全4工場を対象に生コンの製造、品質管理の高度化を図るトータルシステムを導入している。また、GPSを用いた全車両の集中管理により、配車の効率化を図っている。新宮支部の全工場の製造システムを統一し、各工場の車両を一元管理して配

車することで高品質な生コンの安定供給を共同販売で提供するという組合理念に基いて整備された。全車両の集中管理システム（リバティ・アシスト）の導入は2010年の8月。一方、生コンのトータルシステム（PNS）は昨年の1月から3月までに全工場に導入されている。

日比野社長は操作盤を中心としたトータルシステムの導入により、特に若い世代や女性の社員が機器に興味を持ち、より積極的に仕事に向かうようになった効果を指摘している。「骨材の自動表面水率測定や補正、それによる推定強度、単位水量の自動表示、あるいはGPSによる車両管理などの様々なシステムが時代・世代にあった構成になっている」（日比野

社長、以下同）。また、同社がPNSに最も期待しているのが、強度推定機能だ。「生コンの製造および品質を確保する現場ではまだまだ重い、汚れる、作業時間がかかるなど職場環境の発展のスピードが遅い。特に4週を待たなければ品質がわからない現状は現代の潮流に即しているとはいえないと思う。我々が生

「各工場ともトータルシステムをほぼ同時に導入したため、技術スタッフ同士がトラブルや操作など日常的に情報を交換し合っており、助け合うこともできる。組合運営の面でも非常に効果的だ」。

2011年9月、台風12号で熊野川が氾濫した際には道路や橋が浸水するなど地域の被害は甚大なものがあつた。現在では道路などができた。鷲熊協組の主要なインフラは復旧しているが、河川を中心とした災害復旧や防災のための事業はまだ必要な状況で、同社もその対応に追われている。南牟婁郡の本社工場ではコンクリート二次製品を製造しているが、災害復旧用の護岸ブロックの需要が依然として多い。

全車両の集中管理も

新宮工場も深刻な被害を受けた

を中心としたトータルシステムの導入により、特に若い世代や女性の社員が機器に興味を持ち、より積極的に仕事に向かうようになった効果を指摘している。「骨材の自動表面水率測定や補正、それによる推定強度、単位水量の自動表示、あるいはGPSによる車両管理などの様々なシステムが時代・世代にあった構成になっている」（日比野

同社を含む鷲熊協組新宮支部の4工場はそれぞれPNSによる品質管理の各データを取り、それを月1回の技

術会に持ち寄っていた。現在では道路などの主要なインフラは復旧しているが、河川を中心とした災害復旧や防災のための事業はまだ必要な状況で、同社もその対応に追われている。南牟婁郡の本社工場ではコンクリート二次製品を製造しているが、災害復旧用の護岸ブロックの需要が依然として多い。

「台風12号では地域全体が大変な思いをしたが、地域の皆様や組合員の団結によってここまで立て直すこ